

工化時報

第18号

KoKaJihO2002

目次

OBから大学への提言	P. 2~3
産学技術交流会報告	P. 4
産学技術交流会参加者一覧	P. 5
次回産学技術交流会について	P. 6
物質応用化学科研究題目紹介	P. 7
分析センターの利用法	P. 8~9
1日体験化学教室	P. 10
オープンキャンパス	P. 11
工化会総会	P. 12~13
会費納入者一覧	P. 14~15
クラス会・同窓会の報告	P. 16~18
図書館利用法	P. 18
駿河台校舎では、どこで ご飯を食べればいいのか?	P. 19
編集後記	P. 20
会社広告	P. 5、6、9、 15、18

シリーズ OBから大学への提言

変化への対応

ピーアンドシー株式会社 代表取締役 安 達 昭 郎
(昭和35年工化卒業)

本誌の装いを新たにすることにあたって何か提言をとのことであったが、貧乏学生時代を過ごしたものが、はたまた高度成長時代を歩んだものがなど、いろいろと考えてみた上で多少でもこれからの校友と大学との接点は何処にあるかを考えて思いつくままに書いてみることにした。

企業は今生き残りにかけて格闘している。経営者は大きく変化してきた社会・経済の環境のなかで如何に素早く対応できるかでその企業の存亡を左右している。では大学ではどう対応しているのか、倒産とは無縁ではないとの危機感は当然持っているであろう。無論そんな事態になることを誰も考えている筈はなく懸命に改革へと行動しているものと思う。

大学も年輪の多さと長い伝統に胡座をかいていられる時代ではない、これからの発展も現状の維持さえも現在抱えている課題の対応如何にかかっていると看做しても過言ではあるまい。急速な教育改革の波、少子化時代になって大学はどう立ち向っていくのか、消費者(社会・受験生)に受け入れやすく満足感をもたらすような商品(教育カリキュラム・教育手法)をいかに開発・販売ができるかに掛かっていると思う。とにかく「動け(動く)大学」を唱えての改革推進と、その成果をわかり易い形で外部に発信して行く必要があるのではないか。特に校友への発信を積極的に行い「新生工化」創出を強く訴えて校友の参加を呼びかけ協力を問うては如何であろうか。

富国強兵時代の向学心に燃えた若者達、偏差値と生涯就職先を目標にしてきた時代の若者と違い、今日自分自身を見つめようとする、また規制には対抗の姿勢を示す若者と時代と共に学生観は変わってきた。旧弊が打破され、IT産業時代へ大きく転換する中、これからの若者の思いを適えられる体質、また若者の競争心を呼び起こすような個性的な形を創出し、生き残るためのみならず教育・研究に存在

感のあるトップ大学・大学院に転進する馬力のあるところを見守りたい。

卒業して定年を迎える頃になり母校に愛着を抱くのは常であるが、校友間の親睦を図ることを越えて校友・大学が今こそ一体化しての行動が望まれる時代になって来たのではないのか。社会の第一線で活躍する校友たちが大学へ有効な提言を惜しまず、積極的に協力する姿が待たれるものである。グローバリゼーションに向かって国内外を問わず産学連携、異種の教育・研究機関などとの交流・連携関係を探り、さらに一歩進んでの産学、大学間の提携・連合が起こればと考えられる。是非とも校友の協力と参加を要請したいものだ。その点で昨年開かれた第一回産学技術交流会はそのきっかけを作ったものと高く評価されると思う。

新生産業の創出のために「効率と集中化」の経営を念頭において研究・開発が強られる産業界の現状に対しては大学本来の任務と言われる、また得意とする基礎研究分野を受け持って接し、連携するのが最も理想的な形と言われるのだが、そのためには大学からの徹底した情報公開によってその対応能力を開示し、官・産業界に対処する必要があるだろう。むろん自己満足での仕事でなく自信をもった弁解のないものでなくてはならないのだ。

日本大学は変わろうとしている、市ヶ谷バレーと言われる大学研究都市の一翼を担っての活動、またお茶ノ水界限の再開発による一大総合教育センターの設立が計画されて校友との接点となる校友会館の建設計画もあると聞く、箱ものペースでない実のある交流の場としての利用が期待されている。

工業化学科、物質応用化学科が数年後には創立65周年を迎えるが、その頃には開かれた、特色と競争力を備えた今までとは一味違った魅力ある学科となって教職員・学生が自信にあふれて研究・勉学に励んでいる姿を見ることが出来よう。

書き終わってみれば何の提言をしたのか自分自身で定かでないのがいささか気になるところあるで、むしろ学内に対しての苦言が多かったような気がして、ここは一旦失礼の段容赦願わねばなるまい。

第1回 産学技術交流会(化学) 2001 会務報告

実行委員会委員長 澤 口 孝 志

理工学部理工学研究所分析センター主催、物質応用化学科および工化会(工科校友会工業化学部会)共催による「第1回 産学技術交流会(化学)2001」は平成13年11月16日(13:00~17:50)駿河台校舎8号館841教室にて催された。

主催者側栗田公夫教授の挨拶に続き、三菱電機(株)顧問・アラバマ大学ロケット推進研究所特別研究員久保田浪之助氏による基調講演「産学技術共同について」が行われた。その後、本会事務局(囲み参照)が共同研究等の受け入れ態勢について説明した。続いて本学部・学科の最新研究シーズ:①バイオミメティックプロセスによる構造融合化材料の設計と創製(文部科学省ハイテク・リサーチセンター整備事業:平成11~15年度、プロジェクトリーダー矢野彰一郎教授);②超臨界流体の利用技術(学科新規プロジェクト「超臨界流体・ナノ構造体研究会」、プロモーター越智健二教授)を紹介した。

コーヒーブレーク後、研究開発のための各種機器の基礎と応用講座として、①構造解析(萩原俊紀専任講師)、②物性解析(清水繁専任講師)、③一般分析(櫻川昭雄短大教授)について解説し、機器の利用方法や先端材料の解析手法など活発な質疑応答が行われた。引き続き2号館に集約されている各種設備を見学した。

講演会参加者は合計147名(一般83、教員23、学生41)であり、会場は熱気に包まれた。大学側のヤル気は伝えられたものの、初回でもあり異なるベクトルの混合メニューとなってしまう、全般的に個々の内容が希薄且つ時間的にタイトであったと思われる。

懇親会にも多くの方(合計97名:一般63、教員26、学生8名)が集い、18:00より5号館食堂にて催された。学科教室主任(安江任教授)、工化会会長(安達昭郎氏)の挨拶に続き、乾杯(栗田公夫教授)に移った。意見交換等の熱が高まったところに理工学研究所所長(川幡長勝教授)が駆けつけ主催側代表の挨拶をした。議論沸騰いよいよ舌好調を迎えたころ、前教室主任(矢野彰一郎教授)の中締めがあり、20:00過ぎに散会となった。

本会は理工学部としても初めての試みでありましたが、成功裡に終了できたことは、ひとえに理工学部、学科および工化会の皆様のご理解とご協力によるものであります。深く感謝申し上げます。追記:その後、産業界から8件のお問い合わせがあり、内1件は既にGC-MSのライセンサーとなり外部料金にて継続的に測定している。残り5件が現在も応答中である。

第1回 産学技術交流会(化学)

2001' 参加者名簿

一般(敬称略)	小松原 彬	藤澤 浩	幸	庄子 和夫
青山 博光	斎藤 守圀	藤平 隆喜	菅野 元行	
安達 昭郎	酒井 雅秀	細谷 文夫	滝戸 俊夫	
五十嵐 輝行	榊 亜紀	堀 内達也	谷川 史	
砂沢 周一	坂崎 昭男	堀本 陸治	遠山 岳勝	
石川 公平	指田 紀利	松下 武史	栃木 俊紀	
石川 宣明	佐藤 江浩	松田 和久	萩原 勝巳	
石田 雅彦	佐藤 崎	松本 健次	平野 誠	
市村 高央	篠田 研爾	松本 良二	深津 弘幸	
伊藤 穂高	芝田 哲也	松山 邦雄	松田 清	
江部 明裕	島崎 秀夫	丸三 浦美	真田 孝	
遠藤 裕之	杉崎 義弘	三田 三秀	森安 江	
大木 健嗣	鈴鈴 木光	三宮 川	安野 彰一	
大田 裕久	鈴見 攻良	椋木 平八	矢野 健生	
大塚 康司	高松 一勉	武藤 和一	山中 志	
大橋 武也	竹澤 政尚	山下 和慧	学生	
岡村 敬朗	中田 良明	山本 隆久	戸田 篤弘	
奥村 康人	土條 功彦	山佐 博也	千島 好弘	
甲斐 佳志	常世 和俊	吉野 修一	塚野 美沙	
粕川 正利	外崎 一男	和田 明修	遠藤 博清	
片桐 是紘	永島 正雄	渡辺 俊博	亀田 木登	
金香 一成	中嶋 信雄	秋久 昭彦	平井 淳	
河合 健勝	中新 国剛	磯谷 月穰		
川嶋 長秀	西田 由典	大智 健二		
河野 正光	根岸 良寛	越田 清文		
木曾 守義	野橋 元康	栗原 芳行		
倉澤 満晃	橋本 知浩	栗小 櫻一		
原持 敦子	林田 正純	櫻澤 清		
剣分 昭彦	半瀬 明			
小菅 輝利	藤 澤			
小小松				

火薬エネルギーの利用を通して社会に貢献

救難用・宇宙開発用・医療用の各種火工品

細谷火工株式会社

昭和32年卒 代表取締役社長 細谷 文夫

本社工場 〒197-0801 東京都あきる野市菅生1847

TEL 042-558-5111

” 第2回 産学技術交流会 (化学)

2002” へのお誘い

第1回交流会では、本学部および学科が所有する「汎用あるいは特殊分析装置とその応用技術」をご紹介し、ご参加いただいた83名の方々の中から現在まで7件の共同研究および委託分析のご依頼をお受けしました。

第2回交流会では、「グリーン・サステイナブル・ケミストリーの実用技術」として本学部および学科が取り組んでいるエネルギー変換、リサイクル、グリーン・ポリマー等に関する研究成果をご紹介いたします。

これらの分野に関連のある方々およびご興味のある方々に一人でも多くご参加いただき、上記研究成果を産業界へ応用展開していただくことによって、産学が共生発展していくことを期待しております。

開催日時は下記を予定しておりますが、プログラム等の詳細は後日ダイレクトメールにてご案内いたしますので、興味のある方は本会事務局(囲み参照)までご連絡下さい。

記

1. 日 時：平成14年11月22日(金) 13:00～(18:00～ 懇親会)
2. 会 場：日本大学理工学部駿河台校舎(JR総武線御茶ノ水より徒歩3分)
3. 参加費：未定

以上

物質応用化学科産業技術交流会(化学)事務局

澤口孝志	sawaguti@chem.cst.nihon-u.ac.jp	03-3259-0819
浮谷基彦	ukiya@chemo.cst.nihon-u.ac.jp	03-3259-0816
石黒香織	kaori_ishiguro@chem.cst.nihon-u.ac.jp	03-3259-0432
大橋享代	ohashi@chem.cst.nihon-u.ac.jp	03-3259-0870

ポリオレフィン系コンパウンドの製造・販売



昭和化成工業株式会社

□本社：工場 〒348 8585

埼玉県羽生市小松台1-603-29
TEL 0485-61-5221 FAX 0485-61-5229

□接納・試験
TEL 0485-61-5225 FAX 0485-61-5228

昭和53年卒

代表取締役社長 池本俊一

□東京支店 〒101-0032

東京都千代田区岩本町3-3-2 アックス神田8F
TEL 03-5823-1301 FAX 03-5823-1304

□大阪支店 〒532-0011

大阪府大阪市淀川区西中島6-1-3 7XHD新大阪第2ビル10F
TEL 06-6307-2727 FAX 06-6307-2748

□名古屋営業所 〒450-0002

愛知県名古屋市中村区名駅3-15-1 名古屋パルクビル2号館
TEL 052-581-2211 FAX 052-581-2385

物質応用化学科 研究題目紹介

物質応用化学科では公的機関や企業からの委託研究・共同研究を受け入れ産官学が連携した技術開発や新しい産業創生に努力しております。技術的な問題で困ったときにはご相談下さい。

化学工学研究室

- 教 授 越智 健二 超臨界流体の高度利用、化学工学物性の測定と推算
 教 授 栃木 勝己 相平衡データベース ASOGDB9の開発、化学工学物性の測定と推算
 助 教 授 栗原 清文 多成分系混合物の成分分離、化学工学物性の測定と推算
 助 手 松田 弘幸 平衡物性の測定と推算

環境微生物学研究室

- 教 授 長田 洋子 D-アミノ酸の生合成と分解、超好熱性古細菌のエネルギー代謝
 専任講師 西村 克史 生体におけるD-アミノ酸代謝系
 助 手 谷川 実 硫黄酸化細菌のチトクロムc酸化酵素、D-アミノ酸転移酵素

高分子工学研究室

- 教 授 栗田 公夫 高機能・高性能高分子材料の開発
 専任講師 清水 繁 高分子溶液の物性

高分子合成研究室

- 教 授 矢野彰一郎 有機・無機ハイブリッド材料の開発、生分解性高分子材料
 教 授 澤口 孝志 末端反応性オリゴマーの合成とそれを用いた機能性高分子の開発
 専任講師 萩原 俊紀 高分子錯体を經由する新規機能性化合物の開発

資源利用化学研究室

- 教 授 真下 清 泥炭および回収古紙から資源的有用物質への転換反応
 助 教 授 平野 勝巳 木質バイオマスの直接液化反応、廃プラスチック中の不純物除去
 助 手 菅野 元行 石油廃製品と石炭の共液化反応、カチオン交換炭の液化反応

生物資源化学研究室

- 教 授 秋久 俊博 生物資源を素材とした新規機能性分子の創製
 助 教 授 深津 誠 酵素リパーゼの新規利用技術の開発
 助 手 浮谷 基彦 生物資源を素材とした新規機能性分子の創製

分析化学研究室

- 教 授 磯崎 昭徳 微量金属のスペシエーション・アナリシスの反応解析
 教 授 櫻川 昭雄 環境関連化学物質のオンライン計測法の開発
 助 手 森田 孝節 原子スペクトル法を用いた極微量金属の定量及びその原子化過程に関する研究

無機材料化学研究室

- 教 授 安江 任 酸化カルシウム系化合物の形態制御と物性変化
 専任講師 小嶋 芳行 酸化カルシウム系産業廃棄物のリサイクル
 助 手 遠山 岳史 酸化カルシウム系生体模倣材料の創製と性質

有機合成化学研究室

- 教 授 滝戸 俊夫 第16族元素(硫黄、セレンなど)を含む有機化合物を利用した新規合成反応の開発
 天然に存在する有用な生理活性物質の誘導体を合成と機能評価
 専任講師 大月 穰 分子デバイスをめざす化学
 助 手 青山 忠 担持試薬を用いる有機合成反応

理工学研究所分析センター活用のお願い

分析センター管理責任者 栗田 公夫

理工学研究所分析センターでは、下記の7装置を保有し、学内外、特に物質応用化学科の利用者に活用されています。いずれも駿河台校舎2号館に設置されています。工化会の卒業生皆さんの中には、このような装置を保有していなくて、使用料金の高い外部委託をされていることも多いかと存じますので、当分析センターの装置を知って頂くと、比較的安価で手軽に活用できますので、ご紹介申し上げます。またご参考までにハイテクリサーチセンターならびに学科が所有している機器についても併せてご紹介致します。なお、分析センターの1と5以外はライセンス制ですので、講習を受ければ、ライセンスが発行されます。使用料金や利用の手引き等詳細を知りたい方は、別記事に記載の澤口、大橋、石黒までご連絡下さい。

1. 分析センター機器一覧

1. 元素分析装置 (ヤナコ製CHNコーダーMT-5 & 京都電子工業製AT-310J)
2. ガスクロマトグラフ質量分析装置 (島津製作所製QP1100EX)
3. 高速液体クロマトグラフ質量分析装置 (日立製作所製M-1000S)
4. 飛行時間型質量分析装置 (MALDI-TOFMS)
(アプライドバイオシステムズジャパン製Voyager DE PRO)
5. 400MHzフーリエ変換核磁気共鳴装置 (日本電子製JNM-GX400)
6. 電子スピン共鳴装置 (日本電子製JES-RE2X & ES-EDX4エンドールスペクトロメータ)
7. 小角・広角X線散乱装置 (Kratky 製)

2. ハイテクリサーチセンター設置機器一覧

1. 500MHzフーリエ変換核磁気共鳴測定装置 (日本電子製JNM-ECP500)
2. 流通式超臨界反応装置 (耐圧硝子工業製 TSC-0096)
3. 顕微ラマン分光装置 (レニショー製 RAMASCOPE SYSTEM1000)

4. 動的散乱測定装置 (大塚電子製 DLS-1500DH)
5. 流動電位測定装置 (島津製作所製 ZP-20H)
6. 走査型プローブ顕微鏡 (セイコーインスツルメンツ製 SPI-3800N SPA400)
7. 高速アミノ酸分析計 (日立製作所製 L-8800)

3. 学科所有機器一覧

1. 電磁波分析

紫外可視分光光度計 (UV-VIS)、蛍光光度計、赤外分光光度計 (IR)、X線回折装置、蛍光X線分析装置、原子吸光分析装置、プラズマ発光分光分析装置、走査型電子顕微鏡、アッペ屈折計、核磁気共鳴装置 (NMR)

2. 電気分析

電気化学分析装置

3. 分離分析

液体クロマトグラフ (LC)、ガスクロマトグラフ (GC)、ゲル浸透クロマトグラフ (GPC)、ガスクロマトグラフ質量分析計 (GC-MS)

4. その他の機器分析

熱重量・示差熱分析計 (TG-DTA)、示差走査熱量測定装置 (DSC)、熱機械分析装置 (TMA)、全有機体炭素計、A T Pアナライザー

5. その他の機器

動的粘弾性測定装置 (DMA)、密度測定装置、比表面積測定装置、融点測定器、細孔分布測定装置、精密力量測定器、引張り試験器、試験用混練押出し機、ロール型混練機、加熱プレス装置、オゾン酸化装置、超臨界流体抽出試験装置、連続蒸留実験装置など

産業廃棄物収集・運搬中間処理のスペシャリスト



株式
会社

三栄興業

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-302

60年卒 鈴木義弘

TEL 0489-55-1632 E-mail:sanei@pc-mind.co.jp

1 日体験化学教室

近年、高校生の理科系離れや、また好きであっても実験の機会の少ないことを危惧し、理科系大学が主催して高校生に実験を通して化学の面白さを体験してもらう化学教室が盛んに開催されています。物質応用化学科も駿河台校舎2・8号館を使用し、平成12年に第1回1日体験化学教室を開催し、第2回を、昨年7月14日(土)に実施しました。なお、この会は日本化学会、高分子学会、化学工学会の共催で、理工学部、短期大学部からも資金援助をいただきました。この化学教室への応募申し込みは指定高校への案内送付、各学会誌での会告、OBの手助けなどもあり150名を超える応募がありましたが、参加者は実験室の規模などから、先着順122名に絞らせていただきました。実験テーマは、「先端機器でナノ分子の世界を探る」、「カラー分子を合成して光特性をしらべよう」、「石炭がカラフルに!」、「身近な水の成分を分析しよう」、「Re2100の不思議」、「環境に応じてさまざまな色に輝くカメレオン蛍光体をつくってみよう」、「卵黄の成分を調べてみよう」、「タンパク質を分離してみよう」、「プラスチックのリサイクルを体験しよう」、「実生活の中のゲル」など物質応用化学科の所有する機器の紹介や各研究室ごとに行う10テーマを用意し、高校生に実際に実験・見学してもらう企画としました。当日は98名の出席者の他に、日化「化学と教育」誌(4月号)の取材者1名の参加を得ました。午前中に澤口孝志助教授による講演「大学で学べる化学って何?」があり、その後午前・午後1テーマずつ実験を行っていただきました。教える教員、大学院生および実験する高校生も冷房がかすかにきいた真夏の実験室で汗だくになりながら一生懸命に取り組み、参加者には実験終了後に日本化学会発行の修了証書が授与されました。高校生にとっては難解な実験もあったようですが、大部分の高校生が化学に興味を持てた、いい経験になったとのアンケート結果を受けました。第3回の1日体験化学教室は7月20日(土)に開催予定ですのでご子弟、お知り合いにも声をかけていただき、この1日体験化学教室が有効に活用されますようご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



オープンキャンパス

理工学部オープンキャンパスが平成13年度も昨年8月4日(土)に実施されました。オープンキャンパスは高校生と受験生に理工学部の12学科と一般教育ならびに短期大学部の真の姿を見てもらうためのイベントとして平成10年度に始まり、本年度で4年目となります。内容は、午前に大学の講義を短くしたミニ講義、午後からは各学科で企画した参加型プログラムが行われ、学科ごとにその特徴をアピールするために毎年工夫をこらした企画を立てています。

我が物質応用化学科においても、「生きた化学、活かす技術」を平成13年度のメインテーマに掲げ、次のような2つのミニ講義と学科紹介プログラムを行いました。まずミニ講義としては、長田洋子教授と澤口孝志助教授に講義をお願いし、それぞれ「極限環境にすむ生物たち」、「リサイクル可能な新しい高分子素材をつくる先端化学 -グリーンケミストリ-」と題して、高校生・受験生に分かりやすく講義をしていただきました。いずれの講義も聴講してくれた高校生・受験生に好評で、150名以上の参加をえました。また、来校してくれた高校生・受験生に参加していただくための学科紹介プログラムとして「化学が織りなす不思議-化学実験に挑戦」と題して、次の4つの実験を企画しました。

- (1)七宝焼きを体験しよう(下の写真をご覧ください。物質応用科学科の定番イベントです)
- (2)小さいものをのぞいてみたら(デジタル顕微鏡を使用しミクロの世界を覗いてもらいました)
- (3)錬金術師になってみないか(銅板を外見上、金と同じに見える銅-亜鉛合金に加工する実験です)
- (4)香りの正体は?(香料の抽出実験として、バニラ豆からバニリンを抽出しました)

いずれの実験にも多くの高校生・受験生の参加をえて、その数は170名を越えました。また以上の実験の他に研究室ごとに作成した研究紹介用パネルを用いて訪れてくれた高校生に本学科スタッフから研究内容の説明と質問を受けました。

平成13年度の本学科への参加者は過去4年間で最も多く、ミニ講義、学科紹介プログラムを通じて高校生・受験生に強く物質応用化学科を印象付けられたものと考えております。

最後に、工化会からはオープンキャンパス実施に当たり毎年ご援助をいただいています。この場を借りまして御礼申し上げます。また今後も変わらぬご支援をいただけるようお願いする次第です。



平成13年度工化会総会および 工化会会費納入状況の報告

平成13年度工化会総会は平成13年6月2日(土)午後5時より理工学部8号館841教室において役員、会員74名の出席を得て開催された。安達昭郎会長挨拶の後、議長に同会長を選出し、庶務、会員、会報の各委員会責任者による12年度事業報告、会計委員による12年度決算報告がなされ、承認された。次いで13年度事業計画が各委員会より、また会計委員より予算案の説明があり、審議の結果承認された。予算は厳しい財政状況を反映したもので積極的に工化会費を徴収する必要性のあることを示していた。工科校友会個人表彰の候補者として亀ヶ森進氏(専門部 昭和17年卒)と関谷道雄氏(学部 昭和22年卒)を推薦することにして、総会は無事終了した。なお総会の席上、安達会長より工科校友会元会長(工化会元会長)太田善造氏より工化会に100万円が寄付されたことが報告された。

会場を5号館食堂に移して、懇親会が開催された。安達会長、矢野彰一郎物質応用化学科教室主任、太田善造氏の挨拶、そして亀ヶ森進氏の乾杯の後、和気あいあいの内に会が進行し、午後8時にお開きになった。大変盛り上がった会で、ぜひ平成14年度の総会には多くの会員の出席を期待したい。

会費の納入状況は次の通りである。

平成12年度は主として役員、評議員等の会員からの納入によるものであるが、99人、181,000円であった。本来なら12年度の収支決算で報告すべきものであったが、我々の不手際により、13年度の収支決算で報告することになったことをご容赦願いたい。年会費は1,000円であるが、複数年分の会費を支払った人、あるいは寄付をしてくれた人等のためこの金額になった。

平成13年度からは工化時報に振替用紙を綴じ込んで、連絡のつく全会員に依頼をしたところ、552人、1,332,500円(平成14年1月10日現在)が納入された。工化時報に納入会員の氏名を記載したことで御礼としたい。寄付を含めて1,000円以上納入の方も、5年、10年分の会費を納めた方も多数いて、工化会に対する会員の熱い思いを感じている。会費納入には期限はない

ので、ぜひ多くの会員からの納入をお願いしたい。そして工化会をぜひご支援いただき、物質応用化学科(旧工業化学)と会員の絆を深いものにしたいと切望している。

なお、13年度工化会予算の概要は以下のようである。

収入は840万円(内訳 前期繰越金313万円、校友会割戻金40万円、名簿整備補助費100万円、定期預金引出金300万円、その他87万円)である。支出は庶務費62万円、会員費17万円、会報費293万円(工化時報郵送費、印刷費)の計372万円を予定している。前期繰越金と定期預金引出金を差し引いた予想収入は272万円(名簿整備補助費100万円を含む)しかないことに注目していただきたい。現在の工化会基金は定期預金として630万円あるが、これを13年度予算のように取り崩していくと、数年で全財産を食い潰してしまうことになる。したがって健全な工化会運営のためにも会費納入の重要性をご理解いただけたかと思う。

工化一一会(旧制学部 昭和26年卒)より工化会に10万円の寄付をいただきました。昭和39年3月学部1部卒業生一同様より5万円の寄付をいただきました。太田善造様と併せて厚く御礼申し上げます。

平成14年度工化会総会は6月1日(土)午後5時より駿河台校舎8号館で開催します。

多数の会員の出席をお願いします。

庶務委員 真下 清

13年度における工化会が関係した行事及び補助金を出した行事は以下のようです。

1. 5月19日(土) 午後3時～6時
工化会役員会(駿河台校舎)
2. 6月2日(土) 午後5時～8時
工化会総会・懇親会(駿河台校舎)
3. 6月22日(金) 午後6時
工科校友会総会(東京ガーデンパレス)
4. 8月4日(土) 午前9時～午後4時
オープンキャンパス(船橋校舎)
5. 11月16日(金) 午後1時～8時
産学技術交流会・懇親会(駿河台校舎)
6. 1月22日(火) 午後3時～6時
工化会後援特別講義(駿河台校舎)

鈴木正	慶之	谷玉	藤置	善憲	美三	中村	孝次	郎平	井田	陽達	一男	松丸	本山	規長	雄資	柳柳	脩正	一郎
鈴木幸	郭之	玉置	置村	憲弥	三栄	中村	村智	平智	田平	達壽	男男	丸満	山田	長泰	資志	矢野	正野	次雄
須藤川	幸二	田田	村村	佐重	中村	中村	紀史	平野	田野	壽勝	巳常	見上	浦三	淳一	一郎	矢山	浦口	甫寇
炭田	幸宏	田田	村野	英雄	中村	中村	幸雄	平原	田原	才博	之博	三浦	三浦	真昭	修治	山山	山崎	猛征
関根	欣一	丹丹	野野	幸隆	中村	倉村	郁正	廣宣	田橋	亮史	豊史	三三	三三	昭清	昭清	山山	山下	登一
曾我	敬武	長士	野屋	茂久	野野	谷村	友勤	次基	福富	弘和	之代	水水	水水	明正	彰弘	山山	内本	良夫
外山	武研	次博	田屋	宏武	西西	川嶋	晴泰	基世	藤藤	田田	誠一	三三	三三	昭昭	昭昭	山山	幡川	一順
曾園	三朝	土常	包山	武雄	西西	田田	宗元	世伸	藤藤	田田	郎郎	三三	三三	昭昭	昭昭	山山	山山	忠樹
高木	朝英	常椿	井井	聰隆	西西	谷村	公勇	雄夫	藤藤	間佐	多夫	宮宮	宮宮	利利	利利	吉吉	川川	和和
高木	英	坪鶴	岡蔵	隆彦	西西	根岸	庄進	一史	藤藤	森木	信大	安三	宮宮	利利	利利	吉吉	川川	一弘
高木	昌喜	寺寺	嶋山	一毅	西西	野野	昌秀	美利	藤藤	古川	新昭	宮宮	宮宮	久雅	利行	吉吉	田田	耕一
高木	芳行	遠彦	山山	岳啓	野野	野野	勝美	古古	藤藤	古古	一和	宮宮	宮宮	昭昭	昭昭	吉吉	野野	早苗
高野	俊彦	清淳	竹田	健晴	野野	能代	俊美	北北	藤藤	玄玄	宏文	宏文	村村	利利	利利	吉吉	廣邦	正二
高橋	秀舜	樹一	藤村	芳富	野野	萩原	美津	星穂	堀堀	宏忠	健健	望望	望望	政昭	政昭	米米	倉田	久雄
高橋	俊武	苗中	井井	忠一	野野	橋本	圭廣	右雄	堀堀	健宣	馨宣	望望	望望	昭昭	昭昭	米米	米田	修廣
高橋	武俊	生長	井井	一良	野野	蓮見	俊修	堀堀	堀堀	宣正	男治	本本	本本	幸久	幸久	米米	山井	内徹
滝戸	博	中中	川島	芳一	野野	長谷	瑞子	堀堀	堀堀	陸義	二弓	百森	百森	雅健	雅健	和腦	渡邊	健一
竹武	孟弘	中中	嶋嶋	一憲	野野	長谷	秀夫	堀堀	堀堀	眞清	清作	森森	森森	伸昌	伸昌	米米	倉田	正二
竹武	政一	長長	瀨田	亨二	野野	林林	邦晴	堀堀	堀堀	金健	作之	森森	森森	昌夫	昌夫	米米	田田	久雄
竹森	徹雅	永永	田田	一雄	野野	林林	貞秀	堀堀	堀堀	利利	之彦	森森	森森	昌美	昌美	和腦	渡邊	健一
竹好	平三	長長	田田	俊正	野野	林林	秀敬	堀堀	堀堀	洋洋	輔幸	森森	森森	正国	正国	和腦	渡邊	健一
田嶋	敏夫	中中	西野	貞博	野野	原原	野野	堀堀	堀堀	弘弘	八八	森森	森森	和美	和美	和腦	渡邊	健一
田中	英雄	中中	野野	博功	野野	野野	幸一	堀堀	堀堀	正正	正正	安安	安安	信人	信人	和腦	渡邊	健一
田中	宏幸	長長	野野	英進	野野	野野	浩正	堀堀	堀堀	廣健	淳次	谷部	谷部	澄子	澄子	計552名		

静電容量型変位計・超音波リニアモータの輸入販売

Progress & Creativity



ピーアンドシー株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比須1丁目20番8号 (エビスバルビル5F)

電話 (03) 5793-1561 ファクシミリ (03) 5793-1562

昭和35年卒 代表取締役 安達昭郎

クラス会同窓会のお知らせ・報告

一新会(昭和27年新制1回卒)クラス会

2001年には3月15日、10月21日の2回の談話会を新宿NSビル29階スカイレストラン伊勢で行った。いずれも30名前後の出席者で旧交を温めた。2002年は卒業50周年になるので、熱海伊豆山で一泊の開催予定。(和井内 徹 記)

工化一一会

旧制昭和26年3月卒業の「卒業50周年記念クラス会」は平成13年5月12日(土)正午より「山の上ホテル」つつじの間で、33名の出席を得て賑やかに開催された。会はずまず全員の記念写真から始まり、稲垣 正君の司会で進行し、小島和夫君の開会挨拶、遠来の木田静男君の発声による乾杯で会食懇談に入った。植村 治の経過報告に続き、今回は五十音順の逆に渡辺光夫君から各自近況報告を行った。15時過ぎ加納照彦君のハーモニカの伴奏により「若きエンジニア」を高らかに合唱し、森 昌夫君の配慮による記念ラベルの特製紅白ワインを土産に、別れを惜しみながら散会した。

交友各位と喜びを共にすると同時に母校の校友会活動に協力させて頂くということで、本会の基金残金から10万円を工化会に寄付するため工化会庶務委員真下教授に稲垣、稲島昭二、植村、加納の4名が届けた。

(植村 治 記)



昭和39年卒75名が同期会に集合

昭和39年卒の同期会が平成13年12月1日、山の上ホテル別館シェヌーで開催され75名の出席に加え、恩師11名のご臨席を得て、久々の旧交を温めた。始めに同期の矢野元主任教授から物質応用化学科の現状説明を受け、化学工学第一の小島先生からは「人生はいろいろな人にめぐり合う旅、青春の心を持って良き出合いをこれからも」と励ましを頂き、有機化学第一の玉置先生のご発声で乾杯。その後両先生と実験のご指導を頂いた板橋、和井内、山田、市川、植竹、平井、中沢、越智の諸先生方を囲み、会場は興奮気味の歓談の輪があちこちに出来た。39年卒はその年に東京オリンピックがあり、日本経済の急成長の中で中堅になったものの、2度のオイルショック、バブルとその崩壊を経験したやや特異な世代であるが、今や還暦を過ぎ未知なる人生を迎えつつある。同期生180人の内、既に物故者が10人になったが、お元気な先生方に倣い、会の終わりに歌った「若きエンジニア」の精神で2年後にも元気に再開することを約して、3時間の邂逅を終えた。(文責、山崎 彰)



写真注；挨拶を聞く元級友、中央は矢野元主任教授

なお、39年卒同期会より工化会に5万円の寄付を頂きました。(工化会事務局より)

妹尾学先生退職記念の集い(平成13年6月9日(土))

平成13年6月9日東京ガーデンパレスにて、「妹尾学先生退官記念の集い」を行った。当日は有機合成化学研究室同窓会(PS会)の会員ならびに物質応用化学科の教職員を中心に東京大学生産技術研究所の方々など、119名が出席した。会は有機合成化学研究室の滝戸教授により日大での約10年間にわたる先生のご活躍が紹介された後、教室主任の矢野教授、PS会の長島副会長による祝辞、板橋元教授の乾杯の後、懇親会となった。アルコールが入るに従い、東大生研の荒木教授、PS会メンバー、東大妹尾研究室の卒業生など多くの方々から挨拶が飛び出し、妹尾先生の間味あふれる教育の一端が垣間見られた。妹尾先生からは、「科学は、芸術と同じように人間の1つの営為であり、例えば、絵描きは自然を画布に描きます。これは自然のある一面を引き出すことです。化学が引き出すのも自然の一面です。たとえば、ニュートンの見出した法則は限られた理想的な条件の下で自然に働く力のある特性を引き出したものです。現在、科学は非常に進みましたが、それでも科学の描く自然は線と点で描かれたものであり、決してすべてを描き切っているわけではありません。線と線との間にはいくらでも隙間が残されています。現在、私たちが直面している地球問題はこのことを如実に現しています。」というお話を戴きました。

山賊会(昭和45年大学院修士入学者の会)

10年ぶりに開催(平成13年11月30日(土))

昭和45年4月大学院修士課程入学したメンバーで組織される「山賊会」が、約10年ぶりに開催された。会名の由来は大学院修了後、3月、6月、9月および暮れと年に4回参集し、互いに研鑽しようという趣旨で3、6、9を振って名づけられた。メンバーは13名である。修了後、数年間この計画は予定通り進行したが、団塊の世代には社会の要請も厳しく、仕事の虜とならざるをえなかった。一人二人とメンバーの足も遠退き予定の遂行が困難となり、休眠状態が続いていた。修了後、30年を経た今、それぞれの責務を果たしつつも時間的に幾分の余裕を持てるようになり、今回の呼びかけに全員(連絡しなかった遠方の2名を除く)が賛同し、開催に至った。今回はじめて出席したメンバーもあり、30年前の若々しい顔つきから50代の生え際が後退し、皺が刻み込まれた(苦悩のためか?)現在の顔つきへのタイムスリップに幾分時間が必要な場面もあったが、話が院生時代になると誰もが20代の若者であった。

メンバーを以下に記載する。

今回出席者: 影山雅秀(有機物理化学)、劔持 晃(分析化学)、篠崎征夫(高分子工学)、白岩正雄(化学工学)、瀬戸 博(燃料化学)、滝戸俊夫(有機合成)、富田幸良(有機合成)原田康雄(高分子工学)、深澤康俊(高分子工学)、山崎雄三(高分子工学)、永島一男(油脂化学)以上11名(今回欠席者: 篠崎勝彦(染料化学)、山脇徳美(油脂化学))



生物資源化学研究室同窓会

平成13年7月28日(土)に第2回生物資源化学研究室同窓会を駿河台校舎近くの麦酒倶楽部で開きました。参加者は52名で、在學生27名、卒業生25名でした。忙しい合間をぬっておいで下さった卒業生の方々には御礼申し上げる次第です。卒業生は久しぶりに顔を合わせた同期と歓談しており、私自身も楽しい同窓会でした。私にとっての同窓生の良いところは、研究室という空間で生活して片寄りがちになる自分の考えを、“いけてない”と率直に言ってくれる事です。

昨今大学教育の充実が叫ばれる中、このような貴重な意見を出してくれる同窓生に感謝し、また反省したいと思います。在學生は顔を合わせたことのある先輩もいるようでしたが、全く面識の無い先輩もいるらしく、御互いにちょうど良い顔合わせの会になったのではないかと思います。これを機会に薄れがちな研究室同窓生のつながりが強まれば良いと思いつつ、今後も同窓会を続けていきたいと考えております。

(文責 浮谷 基彦)

ご存じですか？ 図書館を利用できるということ

卒業生の皆さんでも図書館を利用できるということをご存知ですか。

理工学部の図書館は図書約35万冊(駿河台校舎：約20万冊、船橋校舎：約15万冊)、雑誌約4千種類(駿河台校舎：約3千種類、船橋校舎：約千種類)の蔵書があります。仕事上で何か調べなければならぬ時や文献調査が必要な時など、図書館を利用してみてはいかがですか？

卒業生の利用は個人的な調査・研究に限られますが、卒業を証明するもの(卒業証明など)または日大iクラブ会員証をカウンターに提示すれば閲覧(残念ながら貸し出しはできません。)、コピー(コイン式)を利用できます。

開館時間は9:00~20:00(月~金)、9:00~17:00(土)、原則的に日曜日、祝日、創立記念日(10月4日)、大学休暇中の一定期間と土曜日は休館日です。蔵書に関する情報は図書館に設置されているOPAC端末機でできるようになっています。利用の詳細については図書館カウンターでお尋ね下さい。

電子工業用薬品、高純度化学薬品、有機合成薬品、分析用試薬、実験用器具

 **ふくべ薬品株式会社**

本 社 神奈川県横浜市今泉1006番地 TEL(0463)82-2263(代) FAX(0463)83-1459
東京支店 東京都北区上十条3丁目21番3号 TEL(03)906-6651(代) FAX(03)900-4846
市原営業所 千葉県市原市青葉台4丁目5番6号 TEL(0436)61-1951 FAX(0436)61-1770

昭和40年卒 代表取締役 **瓜本 英雄**

駿河台校舎では、どこでご飯を食べればいいのか？

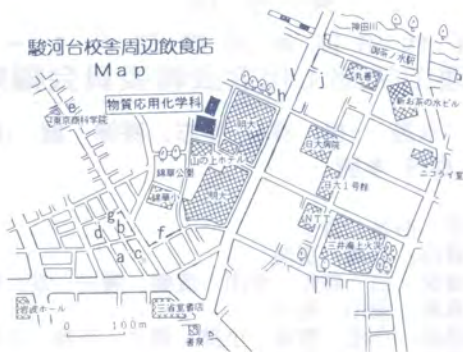
学生編集委員

以前でもこの企画を取り上げましたが、7年も時間が経っているので駿河台校舎の周りもいろいろと変化したようです。そこで、改めてこの企画を取り上げたいと思います。

船橋校舎と違って駿河台校舎では学食が充実していないため、個人で店を探してお昼を食べています。そこで、今回は私たち時報委員オススメのランチスポットをいくつか紹介したいと思います。

まず、マクドナルドやロッテリア、吉野家や立ち喰いそばや近くの明治大学の学食といった低価格で食べることのできる所はなんと言っても外せません。次に、オフィス街ということもあって、定食屋がかなり充実しています。その中から「いもや」と「はらの」を紹介します。まず前店は、とんかつ店、てんぶら店、天井店と三店舗が近くにあり、それぞれの店ともボリュームがあり食べごたえがあります。後店は、ガスコンロが各自に用意されており、自分で焼肉を焼いたり、すきやきを煮たりして食べることができ、とてもユニークな楽しいお店です。その他では、ラーメンやコンビニ、お持ち帰り専門のお弁当を買って、教室で食べている人もいます。また、女性にも人気のパスタや洋食屋も点在しており、「マルコ」というパン屋も人気があります。値段的にみると、500~700円程度が多いようです。この他にもたくさんの飲食店があると思います。学校周辺の地図も掲載しておきますので、これらを参考にして暇を見つけて自分の好みの味を探してみてください。きっと自分のお気に入りのお店が見つかるはずですよ。

- a. はらの
- b. 天井いもや
- c. 橋
- d. めん蔵田家
- e. ムガール・マハール
- f. 札幌ラーメンさんばち
- g. 魚屋
- h. ナポリの下町食堂
- I. マルコ・デ・ポロ
- j. 中華料理とちぎや



◎年表 2001年

長田 洋子 教 授 姫路工業大学より着任

平野 勝巳 助教授 日本オイルシール株式会社より着任

松田 弘幸 助 手 新任

新任の先生方の紹介は次号にて行いたいと思います。

お 知 ら せ

工化時報では、引き続き皆様からの投稿をお待ちしています。また会社広告もぜひお寄せください。

同窓会・クラス会等の記事もお待ちしております。

連絡先：TEL：03-3259-0827

FAX：03-3293-7572

E-mail：jihou@chem.cst.nihon-u.ac.jp

編 集 後 記

工化時報の紙面を刷新いたしましたがいかがでしょうか。これからも学外向けの記事を増やしていきたいと思っておりますので、会員の皆様も記事の企画案等ございましたら会報委員までご一報ください。

広 告 募 集

工化時報では会社広告を募集しています。広告掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1年：10,000円

発 行 所

東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部工化会会報委員会編集委員会

◎伊藤 和雄、永島 一男、澤口 孝志、深津 誠、小嶋 芳行、
谷川 実、森田 孝節

学生編集委員

M2 太丸 卓、前真 貴子

M1 河村 真由、小島 正浩

4年 丹野 雅宏、巴 義和、中川 直樹、藤田 泰、籠島 麻子、
森谷 真希、安川 知子

3年 木村 昌宏、小池 智彦、小林 博之、斉藤 大賀、
進藤 雄亮、相馬 崇博

2年 陳 莉佳、中山 雅弘、平田 清美、蛭田 崇之、
星野 行勝、洞口 由香、八巻 志帆、山田 衛